びっくり! エコ100選2012 実施報告書

びっくり!エコ実行委員会

1. 実施概要

1-1. 会期および会場

- 2012年8月1日(水)~5日(月)高島屋京都店1階・7階
- ・ 2012年8月9日(木)~14日(火) 髙島屋新宿店2階・11階

1-2. 実施趣旨

市民・学・産・官連携による環境イベント「びっくり!エコ100選2012」は、「京都議定書の目標、そして目的を達成するために、びっくり!する切り口で、1人でも多くの方にエコの種をまこう」と2005年に立ち上げ、今回で8回目を迎えた。

今回は、8月1日から5日の間、京都会場(髙島屋京都店1階及び7階)、8月9日から14日の間、東京会場(髙島屋新宿店2階及び11階)にて、ご家族の皆様、特にお子様にわかりですい「びっくり!エコ情報」を発信することとした。特に今年は、京都議定書の第一約東期間の最終目標年と区切りの年であり、原点に戻って、びっくり!するエコな切り口で、ライフスタイルを提案することをコンセプトとした。

1-3. 共催及び後援

- ・ 共催・・・公益社団法人京都市児童館学童連盟
- ・ 後援・・・環境省、東京都、新宿区、渋谷区教育委員会、京都府、京都市、京都市教育 委員会、廃棄物資源循環学会、日本百貨店協会

1-4、実施した展示及びイベント

- オープニングイベント(京都・東京)
- ・ 100選展示(京都・東京共通)
- ワークショップ(京都・東京)
- ・ 京都1Fステージ展示
- 京都1Fステージイベント(エコファッションショー、生き物観察)
- ・ 京都7Fエコお化け屋敷
- ・ 京都7Fこどもエコショップ、自然展示
- ・ 京都7F生物多様性コーナー
- ・ 市民版"京都議定書・虎の巻"(京都・東京)
- ・ エコ夢商品(京都・東京)
- ・ クールキッズステーション
- その他

2. 各展示・イベント報告

2-1. オープニングイベント(京都・東京)

1)京都

8月1日、10:15~11:30まで、1Fゆとりうむにて実施した。大宅保育園のみなさんの 元気な歌の後、KBS京都・村上祐子さんの司会により、尾池和夫先生(京都大学前総長)、 辰巳琢郎さん、門川大作さん(京都市長)、中井敏宏さん(京都府文化環境部長)らが、エ コメッセージを披露し、軽快なトークを繰り広げてくださった。





2) 東京

8月9日、10:30~11:30まで、11F特設 会場内にて実施した。新宿エコレンジャーに よるショーで盛り上がった後、中山弘子さん (新宿区長)にエコメッセージとスピーチを ご披露頂いた。その後、100選展示を担当 した東京学生チームのメンバーからのプレ ゼンテーションが行われた。







2-2. 100選展示(京都・東京共通) 【文責:東京学生チーム】 <展示のコンセプト>

区切りの年を迎えた今回は、100選展示のコンセプトとして、「気候変動や地球温暖化といった地球環境問題をはっきり意識してもらい、これらの問題と自分の生活との「つながり」を今一度考えてもらうきっかけとする」を掲げた。このイベントがスタートした2005年に比べ、エコや環境問題について学ぶ機会、情報に接する機会は随分増えているのに、環境破壊は一向に改善せず、必要なライフスタイルの転換も起きていない。そのような問題意識を背景に、エコの原点に立ち返って「人の生活と環境のつながりを意識する」ことに重点を置いた。

<展示の特徴>

この「つながり」をよりたくさんの人に感じてもらうため、展示方法にいくつかの工夫を加えた。具体的には、1)ゾーン分けされた展示、2)どのようにエコなのか、分かりやすい説明、3)背景にある環境問題の説明が記された「パスポート」、そして、4)子ども向けクイズラリーである。まず、1)ゾーン分けでは、100の展示を4つのゾーン(うちエコゾーン、森ゾーン、エネルギーゾーン、ごみゾーン)に分けて、それらの関連が分かるように配置した。

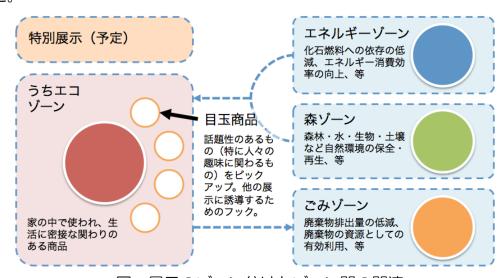


図 展示のゾーン分けとゾーン間の関連

2) どのようにエコなのか、分かりやすい説明では、その商品・取り組みはどういった観点からエコなのかを明確にした上で、従来製品との比較(可能な範囲で)、エコ以外の商品・取り組みの魅力、小学生でも理解できる平易な文章、などに配慮しながら、協賛企業などご出展いただいた皆さまのご協力を得て作成した。

さらに、3) 背景にある環境問題の説明が記された「パスポート」、そして4) 子ども向けクイズラリーでは、来場者の子どもたちを「旅人」に見立て、各ゾーンの展示背景を学生スタッフが解説しつつクイズに答えて展示会場を回るエコツアーを開催した。

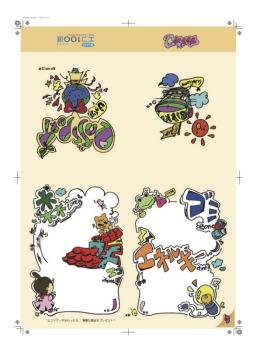




図 パスポート(表面:左、裏面:右)

<会場の様子>

クイズラリーに参加してくれた子どもたちは、京都・新宿両会場で2,000人に上り、展示をご覧頂いた保護者の方々、その他来場者を含めると、京都会場では約10万人、新宿会場では1万4千人(計約12万人)の方に展示を観て頂いた。

クイズラリーは、各ゾーンで1問ずつ(計4問)クイズに答えると景品がもらえる仕組みであっただけに、子どもたちは皆熱心にスタッフの説明を聞いていた。難しいクイズでは、お母さん・お父さんも参戦している様子が伺えた。「もう1問!」と4問以上答えようとする子どもたちや、ラリーが終わったあとも他の展示をじっくり観て回ってくれる子どもたちを見かけたとき、そして展示に対する純粋な驚きの声(「へえ~」や「そうなんだ!」)が聞こえてきたときは、展示を企画した側として大変嬉しい瞬間であった。こういった驚きや気づきをきっかけに、エコや環境問題に関心を持ち、家や学校で継続的に環境について学んでくれる子どもたちが1人でも増えてくれることを願っている。





東京会場の様子(新宿タカシマヤ2F)



【左】初導入の「メクル」仕組みは、 「説明を読みたくなる」と大変好評 【右】展示を解説する学生スタッフと クイズラリーに参加する子どもたち





2-3. ワークショップ(京都・東京)【文責:崎川、渡邊、大庭】

1) 京都会場

京都会場でのワークショップは、8月1日から8月6日までの6日間に、26テーマで、京都タカシマヤ7Fにて開催した。

ワークショップ参加は電話とFAXにより事前に予約受付をした。毎年のことではあるが、京都会場では一部の人気ワークショップ以外は、事前に一杯になることはほとんどなく、開催日当日のお客様を呼び込んである程度の人数を集めることで対応している。募集人数700名に対して、前日までに239名の予約者があったが最終的には、387名の参加となった。これはアンケートが回収できている数であり、実際はもう少し多くの方にご参加いただいたものと思われる。

参加者には、参加した理由、各ワークショップの評価、その後のエコに対する心境等を質問した。387通の回答が得られた。各ワークショップの回答は別途まとめたが、ここでは全体の結果を紹介する。





参加理由としては、「面白そう、楽しそう」が最も多く、続いて「夏休みの自由研究に役立ちそう」であった。物を作るワークショップや実験をするワークショップに人気が集中するのはこのためであろうと考える。ワークショップの評価としては「とてもよかった」が75%を占め、「まあまあよかった」を加えると全体の98%が高い評価であった。エコに対する心境の変化に関しては、「このようなワークショップにもっと参加したい」が最も多く、続いて「エコについてもっと学びたい」であり、多くの参加者がエコの勉強をしたいと思っ

ていることがわかった。ただ一部の参加者に「WS後もその意識が変わらない」という意見もあった。

2) 東京会場

東京会場でのワークショップは8月9日から8月14日までの6日間に、25テーマで、 新宿タカシマヤ11Fにて開催した。











ワークショップ参加は電話とFAXにより事前に予約受付をし、25テーマの内の20テーマが開催前日までに満席になった。具体的には募集人数(586名)に対して、前日までに509名(87%)の予約者があり、当日のキャンセル待ちを含む参加者を加えると、ほぼ全てのワークショップが満席であった。

ワークショップには学習型、参加型、実習型、体験型などとそれ等を組合などがあり、主催者独自の工夫が各所に見られた。特に夏休みの宿題を支援する工作や自由研究にとなるワークショップに人気があった。

参加者には簡単なアンケートを実施し、参加した理由、各ワークショップ評価、エコに対する心境、等を質問した。アンケートは任意の提出であったが、427 通の回答があった。各ワークショップの回答は別途まとめたが、ここでは全体の結果を紹介する。

参加理由としては、「面白そう、楽しそう」が最も多く、続いて「夏休みの自由研究に役立ちそう」であった。ワークショップの評価としては「とてもよかった」が85%を占め、「まあまあよかった」を加えると全体の98%が高い評価であった。

エコに対する心境に関しては、「このようなワークショップにもっと参加したい」が最も多く、続いて「エコについてもっと学びたい」「これまで以上にエコに取り組みたい」などであり、参加者のエコに対する意識の向上に貢献できていることが明らかになった。

3) 東京会場特別ワークショップ(コンサート)

8月11日(土)18:30~19:30の枠において、「秦万里子さんとエコ歌を満喫しよう!」と題するワークショップを、東京会場にて実施した。半径5mの日常を歌う音楽家の秦万里子さんが、身の回りのエコをテーマに生演奏した。来場者参加型のコンサートで、幅広い年代の参加者により多いに盛り上がった。





2-4. 京都1Fステージ展示【文責:妹川】

京都会場においては、8月1~3、5、6日の間、京都タカシマヤ1階ゆとりうむステージ上にて、オリジナル展示を行った。

<企画概要>

生物多様性、生命のつながりの大切さを訴えるために、ステージ上に唐草模様のマグネット板を設置し、100の生き物の写真マグネットをしりとり形式で張り付けた。

100番目には「にんげん」が来るようにし、鏡を張り付けることで、人間も生物多様性のなかの一つの存在であることを表現するという意図もあった。

また、数匹の生き物に関してはマグネットの代わりに実物やぬいぐるみ等をマグネットボックスの中にいれて配置した。



2-5. 京都1Fステージイベント(エコファッションショー、生き物観察)【文責: 藤名】 1) エコファッションショー

日時:8月4日(土) 13:00~及び14:00~(同一内容)

寺田バレエ・アートスクールにご協力いただき、生徒16名+先生1名によるさまざまな エコファッションをバレエで表現するファッションショーを行った。紹介した衣装は以下の とおりである。

- ・ ふろしきを使った帽子、コサージュ、バッグ、服(協力:ふろしき研究会)
- ・ 色染め、黒染めをした衣装(協力:株式会社国華黒)
- ・ タオルを加工した帽子、コサージュ、バッグ、マフラー(協力:池内タオル株式会社、 タオル加工:山本巳根子)
- 女子テコ、スゴT(協力:株式会社ワコール)
- ・ 丹後製シルクのウェディングドレス (協力:フランス人ご夫婦ほか)

KBS 京都の村上祐子さんによる司会のもと、華やかに執り行われた。最後に出演者全員が一文字ずつ持って再びステージに登場し、「未来の地球へ今私たちができること!」というエコ宣言を全員で元気よく読み上げてフィナーレとなった。大変多くの方がショーに見入っていた。2階の吹き抜けからも多くの方が足を止めて見ていた。





2) アゲハチョウの産卵実験と顕微鏡観察~身近な生きものを知ろう!~

(提供:JT生命誌研究館)

日時:8月5日(日) 13:00~14:30

◆アゲハチョウの産卵実験

第1回 13:00~13:00 第2回 14:00~14:30(同一内容)

アゲハチョウが子どものために植物を見分けて卵を産むしくみを利用し、偽物の葉に香をつけることでチョウが卵を産む様子を観察する実験を行なった。

アゲハチョウは30分程度で偽者の葉に卵を産んだ。多くの子供連れの家族が足を止め、 興味深そうに研究員の方の話を聞きながらアゲハチョウと葉が入ったショーケースに見入 っていた。





◆顕微鏡観察コーナー

12:30~14:30

顕微鏡を自由にのぞくことができるコーナーが用意され、カエルの卵がオタマジャクシになるまでの様子やチョウが産卵するために重要な脚の構造を観察することができた。特に実験外の時間帯には多くの子供達が顕微鏡をじっとのぞきこんでいた。





2-6. 京都7Fエコお化け屋敷【文責:永瀬】

日時:8月1日~6日11時~18時

日本各地に残る妖怪・お化け伝説は、子供達へ単に「あの沼は危ないから近寄ってダメ」と言い聞かせても思考として残らないことから、「あの沼は河童が人をさらうので近寄ってはダメ」といったように、子供達へ恐怖心や戒めを強く印象付けるものとも言われている。今回、身近な生活の中で出来るエコを題材とし、単にエコを学習するだけでなく、より強い印象を与え、行動できる学習プログラムとしてエコお化け屋敷を開催したが、老若男女問わず、幅広い世代へより高密度なエコの学習機会を与えることができた。

また、京滋の夏の風物詩といえば「比叡山のお化け屋敷」であり、現存するお化けをリユースすることで更に話題性を高めた。

なお、入場者数は1,333名であった。



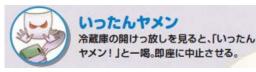




【エコを学べるコンテンツ】

「部屋①」家電製品の電源を小まめに消すこと/イッタンヤメン

「部屋②」ごみの分別をすること/分けろっ首(ろくろ首)





分けろっ首 「ごみの分別」をしないこどもには、首を のばして微笑みながらダメだしを!

「部屋③」クーラーの設定温度を28度にする こと/ムダーサ



魔女・ムダーサ こども部屋が住み家。エアコンを27℃に設定 しなかった日は、夢の中に現れて説教をはじめる。

「部屋④」冷蔵庫の冷気を節約し、食品ロスがでないようにすること/ごみ舐め



ごみなめ 冷蔵庫の中の食べ残しが大好物。腐らない ように、ドアの開けっ放しを厳しくチェック。

その他

2-7. 京都7Fこどもエコショップ、自然展示【栗田、谷】 日時:8月1日~6日 11:00~17:00(京野菜のみ 13:00~17:00)

<エコショップ全体>

グランドホールの入口付近を利用して、「エコ」をテーマとした商品を、「こども」が主体となって販売するショップを5店舗展開した。店員には各店舗の協力者、髙島屋職員(新入社員CSR研修生)とともに、小学生を中心に募集し1日単位で運営してもらった。価格は基本100円~500円程度とし、店の利益(204,361円)は東日本大震災の被災地支援に充てることとした。

入口付近から展開したこともあり、客足は好調であったが、運営上の計画、特に店員となる小学生への対応には、詳細の詰め・周知が足らず、様々なハプニングも見られた。それでも協力者の方々や 高島屋職員の方々の細やかな対応のおかげで、ショップとしての形をつくることができ、さまざまな「エコ」について知り、考えてもらうという目的を果たすことができたと思う。





<各店詳細>

1) 京野菜「とれたて京野菜!」

「地産地消」をテーマに、京野菜の販売を行った。京野菜は、村上薫さん(西京区大原野)および、田鶴均さん(左京区上賀茂)の2つの農家にご協力をいただき、提供した。また、農家一会場間の野菜運搬に(株)日本ウエストの期間全日にわたるご協力をお願いした。エコショップでは、なす3本、賀茂なす3個、じゃがいも5個を売ることとし、値段はそれぞれ300円と設定した。

京野菜を売るということがあまり周知されていなかったため、 売れ行きは好調とは言えなかった。地産地消というテーマをもっ て行ったことではあるのだが、実際の所、「野菜を売る」という行 動だけになってしまったところは反省点である。





2) ふろしき「風呂敷 de お荷物お包みショップ」

風呂敷で荷物を包むことによって、レジ袋を使わなくていいということ、繰り返して使用できるということを啓蒙する目的でエコショップを行った。ふろしき(過去に不要風呂敷回収キャンペーンで集めたもの)は 100 円で販売し、それを店員が包むという形式であった。店長は丸山郁夫さんであり、事前に包み方について唐草屋の大塚さんから説明を受けた。また、店内には風呂敷の包み方や歴史についてのパネル(唐草屋提供)を展示した。



店員は丸山さんおよび、エコショップ店員の小学生である。事前に丸山さんから指導を受け、実際にお客様に対して風呂敷を用いて荷物を包んだ。

ふろしきのエコショップは非常に好評であり、大勢の方に 風呂敷への興味を持っていただくことに成功したと考えられ る。特に、エコショップ店員である小学生が風呂敷を包む姿 は好評であった。「風呂敷ってこんなに便利なんですね」とい ったことをおっしゃるお客様や「100円とは思えないいい風 呂敷ですね」とおっしゃるお客様もおられ、非常に様々な感 想をお持ちになったといえる。また、今回のエコショップの 成功の要因には丸山さん、大塚さんの店員に対する丁寧な指



導も功を奏したといえ、結果としてそれがショップの好評につながったと考えられる。

3)自然展示

自然がどのようにしてエコに貢献しているかということを展示した。展示内容は、木材利用・グリーンカーテンについてのパネル、また(株)堀場製作所から機器を提供していただき、土壌における硝酸濃度(京都大学の農場の土、普通の野原の土、花壇の土を用意)および、ゴーヤを使ったグリーンカーテンによって放射温度がどのように変化するかと言うことを視覚的に体験してもらうものであった。



機器を実際に使って、温度変化や硝酸の濃度を調べるという試みは、多くの子どもたちに好評であった。また大人の方も興味を持ち、一緒に連れてきた子どもに「こういう仕組みなんだよ」と説明するところも多く見受けられた。体験型の展示は、多くの方に興味を持っていただけると言うこともあり成功だったといえる。また、それに付随して、パネルも多くの方に見ていただけた。説明員として、実行委員が一人ついていたが、実行委員に対して、いろいろと聞いてこられる方もおられ、環境問題やそれに対しての自然の貢献について多くの方が興味を持っておられることの裏返しととらえることが出来き、好評であった。

4)「布遊工房―リサイクルおもちゃ作り―」

不要になった紙や布を使って小物やおもちゃを作る、リサイクルの工作をテーマに、体験+展示販売型の店を展開した。運営にあたっては、山本巳根子さん他「布遊工房」の10人ほどの方々に来ていただいた。作品は「名刺入れ」「紙人形」「マラカス」「こま」の4つに加え、「風車」「ふろしき」を展示販売用として置いた。店内には展示台と工作台を置き、工作台では訪れた人が「布遊工房」の方に教わりながら作品を作った。



値段は当初一律 100 円の予定だったが、客足を考慮して協力者の方の対応に任せて値下げを行った。店員は「布遊工房」の方およびエコショップ店員の小学生であった。

店スペースに比して少々店員が過密の時もあったが、おおむねおもちゃ作りは好評のようだった。「ものづくり」の体験を通して訪れた大人も子どもも、物の構造や使い道についているいろと学んでいってもらえたように思う。また、協力者の方が全体的にきちんと運営してくださり、エコショップ店員の小学生への対応も助力をいただけたおかげで、エコショップ全体運営への負荷はかなり軽減された。

5)「古絵本屋―Book eco―」

「次の子へバトンタッチ」をテーマに、児童館などを通して 各家庭から不要になった古本・絵本を集め、1 冊 100 円で販 売した。協力は京都幼児フォーラム、京都市日本保育協会、京 都市児童館学童連盟、(株) こども文化研究所の方々に収集・ 運営を、(株) レボインターナショナル、日本たばこ産業(JT) 京都支店の方々に集積・運搬をお願いした。店員は運営協力者 の方およびエコショップ店員の小学生であった。

エコショップの中でも安定してかなりの好評を得た。古本・ 絵本も多くのご家庭と協力者の方の尽力で大量に集めること ができ、充実した店内容にできた。店員の小学生にも協力者の 方の指導が行き届き、しっかりと運営できていた。





6)「西京極児童館元気ショップ★一京の和小物エコショップ一」 (※8月4~6日のみ)

西京極児童館の子どもたちが作成したリサイクルの小物を 1 個 100 円で販売した。作品はビニールひもと和紙を使った「箸置き」で、準備・運営ともに西京極児童館所属の小中学生 5 名が担当し、また篠部大五郎さんに全面的にご協力いただいた。

企画自体の詰めが遅れてしまい、詳細の決定がぎりぎりだったために少々不完全な面もあ

⁴ カエル

ったが、ほぼ子どものみでの運営の中で、声かけや接客などをかなり積極的に頑張ってくれていた。企画自体を子ども主体で行い、実現させたことの意義は大きかった。その分、より完全な形になるように外からのサポートを固めることができなかったことが反省点となった。



2-8. 京都7F生物多様性コーナー【文責:妹川】

日時:8月1日~6日11時~18時

ースとなった。

エネルギー問題の視点に偏りつつある「環境問題」であるが、 これを考えるにあたって、「生物との共生という観点を忘れないでほしい!」という願いを込めて、生物同士の関わりを食物 連鎖で表現するために巨大モビールを作成した。

また、モビールの下にはテーブルを四角形に配置し、そこに JT生命誌研究館の発行されている生命誌のモビール付きの物 を展示し、希望者に配布した。

お化け屋敷から出てきたお客様がクイズ用紙に回答を書く場所としてテーブルが使用されたため、予想していたよりも多くのお客様が立ち寄るスペ 1 モグラ

反省点としては、高所配置であったことから「何か飾ってある」というレベルであり、 説明するキッカケがなければ、興味を示して もらえず、また、食物連鎖のしくみそのもの が、小さなお子様にはわかりにくかったこと が挙げられる。今回は主に保護者の方への説 明となった。



2-9。市民版"京都議定書・虎の巻"【文責:大塚】日時

8月1日~6日/ 京都髙島屋(1階ゆとりうむ・7階グランドホール)

8月9日~14日/新宿髙島屋(11階特設会場)

市民・家庭レベルでの二酸化炭素削減を呼びかけるもので、京都議定書の達成に向けた家庭で取り組める知恵や取り組みを集め、全国や世界に発信する企画として、第二回のびっくり!エコ 100 選より継続してきた。この虎の巻は、(1)メッセージを刻む"宣言書"(メモリアル)(2)行動を広げるための"読本"としての 2 つの役割を持っている。

びっくり!エコ 100 選 2012 の会場では、 過去の「京都議定書・虎の巻」の展示と、イベ ントに参加いただいた方を対象として、巻物に エコ宣言を書き込んで頂いた。

当日は大勢の方にご協力をいただき、今日から始めるエコ宣言が集まった。全体的な傾向としては、お化け屋敷企画の影響を受けて「冷蔵庫をしめる」「テレビをすぐ消す」といったものが多かったが、ユニークな宣言も数多く見られた。



また、今年度は、「びっくり!エコ百選一首」と題するメッセージ募集型の取組みも行った。具体的には、6月28日~7月14日の間、びっくり!エコ100選公式ホームページや京都市児童館学堂連盟等を通じて、「環境への想いを世界に、未来に届けるもの、わたしたち一人ひとりができる行動を伝えるもの、行動を後押しするための気持ちをこめたもの」を俳句の



形で公募した。そして、入選俳句 100 首をびっくり!エコ 100 選会場(8月1日~6日/京都タカシマヤ 7 階グランドホール)や公式ホームページ(8月1日~/びっくり!エコ 100 選公式ホームページ)にて発信した。入選者には特典として、エコ夢商品(後述)の応募資格を与えた。

皆様から沢山のご応募いただき、合計で約600首もの俳句が集まった。展示会場には入選されたご本人やご家族の方々が多く来場され、自分が書いた俳句を熱心に探したり、他の入選者の俳句を読んだりしていた。

2-10. エコ夢商品(京都・東京) 【文責:光本】

従前より、各種イベントへの参加記念として協賛企業・団体からご提供いただいたノベルティーグッツを配布していたが、今年は節目の年を迎えるにあたり、エコ 100 選のファンへの感謝の気持ち、話題性、各種イベント参加促進、集客を高めるためにご協賛企業から豪華なプレゼントをご用意いただき、イベント盛り上げ策の一環として実施した。

1) 実施内容

- ①各種イベントに参加し、応募用紙を受け取る
- ②エコ夢商品引換えカウンターへ持ち込み、 その場で参加記念品を受け取るか、エコ夢 商品に応募するかをご選択いただく。 もしくは、HP 閲覧によるエコ川柳の葉書応 募でもエコ夢商品の応募を可能とした。
- ③応募された方々の抽選発送(8月15日) 〈集まったエコ夢商品〉 〈抽選の模様〉







2) 工口夢商品応募総数

				京都	東京		
No.	商品名	提供数	提供団体	会場	会場	葉書	合計
1	ペア航空券	1	ANA 京都支店	208	62	23	293
2	ペア宿泊券	2	ハイアット リージェンシー京都	138	48	41	227
	棋士サイン入り扇子	10	JT	13	7	3	23
	生命誌トランプ	10	JT生命誌研究館	18	12	3	33
	マイ・ネイチャー	20	サピックス	50	36		86
	活動量計 カリスキャン	2	オムロン(株)	27	17	3	47
7	小さな森の合唱団(童謡版)	1	正プラス(株)	24	5		29
	森の7daysbath	1	正プラス(株)	3	6		9
	カフェオールト゛リッハ゜ー(2人用)	3	ハリオグラス(株)	12	3		15
10	KOTOHAシャンプー&コンディショナー	1	正プラス(株)	6	4	3	13
11	充電器•充電池	5	㈱富士通	42	18		60
12	男爵芋	10	(株)ロックフィールド	34	26	5	65
	エコデ傘	4	ムーンバット(株)	8	4		12
14	月間絵雑誌「コドモノクニ」	5	㈱高島屋友の会	14	7		21
15	GORE-TEX LEDキャップ	20	田中産業㈱	17	20	2	39
	LEDソーラーライト	18	住友生命	33	15	1	49
	エコ100選オリジナルグッツ(大)	1	びっくり!エコ100選	9	2	2	13
18	エコ100選オリジナルグッツ(小)	1	びっくり!エコ100選	19	4	2	25
19	スゴ衣 天綿	5	ワコール	8	1		9
	合計	120		683	297	88	1,068

※名字廿前

高額商品のペア航空券(20万円相当)・ペア宿泊券(5~10万円相当)が、応募総数の半数を超えたことを踏まえると、一定の話題性はあったものと思う。

2-11. クールキッズステーション及びキッズゲルニカ【文責:大塚】

日時・場所:8月1日~6日 京都タカシマヤ7階グランドホール

「クールキッズステーションin タカシマヤ」として、「各家庭で冷房を掛けるよりも、皆で集まって冷房をかければ節電になる」という発想から、くつろげて、涼めるコーナーを設置した。運営は、京都市児童館学童連盟、京都市日本保育協会、京都幼児フォーラム、キッズエクスプレス21、(株)メイトに全面協力頂いた。具体的には、リサイクルうちわ作り、子ども浴衣着付け、手作りおもちゃ作りなど、常に子どもたちが楽しめる日替わりワークショップも行った。



7階会場に来た子どもたちの多くが、このコーナーに立ち寄り、座卓に向かって熱心に自分のオリジナル作品を作り、嬉しそうに持って帰っていった。また、親御さんらも、簾や川の映像など、コーナーの雰囲気にほっと一息つき、疲れを癒している様子だった。

「エコ・キッズゲルニカ」として、京都市内の児童の皆様にエコをテーマとして 349 c m x 776 c m (縦 X 横) の巨大なゲルニカサイズの絵を書いてもらい、展示した。

殺風景な 7 階会場の壁に子どもたちが想うエコな世界が表現され、会場の雰囲気を華やかで賑やかなものにしてくれた。興味深そうに絵の前で足とめる来場者もいた。





3. ボランティア【文責:大庭、中堂】

びっくり!エコ100選の特徴の一つは、ボランティアによる会場運営である。それによって、様々な企業等の展示を、市民目線で紹介すること、ボランティアと関係者との交流を進めることなどが可能となってきた。業務の多くは接客対応であったが、会場の設営や撤収には力仕事の協力も頂いた。

3-1. 京都会場

京都会場では 前日の設営(7月31日)から最終日・撤収(8月6日)まで7日間、協力いただいた。ボランティア業務は1日を前半(10:00~14:30)と後半(14:30~19:00)に分けてお願いした。

人数としては、延べ226名、その他、以前びっくり!エコ100選に関わった方も2名おり、人数としては44名の登録があった。

<撤収作業中>

<巻物への記入説明>

<来場者への説明>







3-2. 新宿会場

ボランティアの方々には会場の設営(8月8日)から撤収(8月14日)までの7日間の協力を頂いた。ボランティア業務は1日を前半(10:00~14:30)と後半(14:30~19:00)に分けてお願いした。

ボランティア協力者は延べ 108名(半日単位でカウント) であり、この内の2/3は前半と 後半を連続してご協力いただく 全日参加であった。

また、日を改めてご協力くだ

<展示物の説明>



<クイズラリーの対応>



さる方が多数いたため、実際の協力者は27名である。協力者の多くは大学生(大学院生)であるが、一般の応募者も5名おり、その内の1名は元びっくり!エコ100選スタッフであ

る。協力頂いた学生の方々の所属は、東京大学大学院、帝京大学、東京学芸大学、東京薬科 大学、上智大学、国際基督教大学など、様々であった。

4. 来場者数

会期中の来場者数は次の表に示す通りである。タカシマヤの店内という立地の良さから、 今年も、様々な方に展示を見たり、参加したりして頂くことができたと考えている。

表 京都及び東京会場への来場者数

	京都会場	東京会場	合計
100選展示等 京都タカシマヤ1F/新宿タカシマヤ2F	104,000人	14,000人	118,000人
テーマ展示/ワークショップ会場 京都タカシマヤ7F/新宿タカシマヤ11F	3,963人	2,193人	6,156人
合計	107,963人	16,193人	124,156人

※京都会場7Fは、入場者のカウント数を集計、その他は曜日・時間帯等別の一定時間カウント数より推計した。

5. パブリシティ

7月2日~7月31日 平日12:00前後の約5~10分 計18回 KBSラジオにてコーナー 展開

8月4日(土)京都新聞朝刊

8月5日(日) KBS 京都新聞ニュース

8月8日(水)東京新聞

8月10日(金)東京新聞